



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
2025年1月31日

全教北九州 検索 年末年始のとりくみ紹介 特集 この新聞はすべての教職員に配布しています

組合は全ての教職員のもの、働き続けられる学校職場をつくらう

希望を語り仲間を増やす2025年に



全日本教職員組合（全教）
中央執行委員長 宮下直樹

現場の声が動かしている

裏金問題等で信を失った与党の過半数割れによる新しい政治動向のもと、2025年を迎えました。多くの政党が教育無償化や保護者負担軽減を掲げたことは、私たちのとりくみの反映です。

昨年は、教職員の長時間労働問題が可視化され、その解消が子どもたちの成長に不可欠であることが広く共有されました。「このままでは学校がもたない」との街頭宣伝では市民から激励の声がかけられます。「教育研究者署名20万筆や中教審へのパブリックコメント2万件、11・27一斉定時アクション1万2千ポスト等の現場の声が政治を動かします。教員の専門性と労働者性、自由な時間は全面発達の条件」

聖職者かあるいは労働者か。ILO・ユネスコ「教員の地位勧告」は、「教員の仕事は専門職」と位置付けます。聖職者論は、労働者性を否定し無定量な勤務を支えてきました。また、機械的な労働者論は、創造性・自主性の剥奪や、教育のスタンダード化につながる危険性もあります。全教は「労働者階級の一員であるとともに、教育の専門家として

国民の負託にこたえ、私たちの要求と国民の教育要求とを統一的に把握する」（行動綱領）立場を確立しました。労働時間規制や自由な時間の獲得は、教育の専門家としても不可欠であり、人間の全面発達の条件です。「教員」を「学校で生徒の教育に責任をもつすべての人々」と定義し、「教員」の専門性にふさわしい自主性・創造性を保障する労働条件の確立が必要です。

やっぱり先生を増やすしかない

全教北九州市教職員組合 年頭のごあいさつ

2024年は、バスハイク、プロ野球観戦、沖縄平和の旅など、みなさんが笑顔にも学びにもなる企画を行いました。その中で職場での悩み、学校現場の忙しさや働きにくさなどが語られ、「やっぱり先生を増やすしかない！」と確認し合う場にもなりました。

地域移行など部活のあり方、持ち授業時間数が多く授業準備が間に合わない、持ち帰り仕事、生徒指導や保護者対応での疲弊などなど、問題は山積みです。さらに、年明けには、時短勤務希望者の担

組合はすべての教職員のもの組合員増勢・総合共済加入者最高の峰へ到達！

昨年末、組合員数は昨年度末現勢を回復し増勢へと転じ、総合共済加入者は過去最高の峰に到達しました！「労働条件は、教員団体と教員の使用者の間の交渉過程を通じて決定」（「教員の地位勧告」）されます。すべての教職員が組合に参加する権利を持ちます。

11・27全国いつせい定時アクションで「一人分会だけでも、勇気をふりしぼって三角柱を立てた。するとかなりの先生も立ててくれた」等の報告が多数ありました。全国の職場で、「組合員に入ってほしい」の一言を、その思いを伝える1年にしましょう。

任配置が問題になりました。多くの職場で、「こんなの絶対無理！」「時短勤務を取るなってこと？」との悲鳴が上がりました。

全教北九州は、仕事と子育て・介護が両立でき、自分の生活も大切にできる働き方ができるように、教育委員会交渉、学習会、署名活動などに取り組んでいきます。特に、職場での組合活動を充実させていきたいと考えています。ご一緒に声を上げ、意見を交わし、声を教育委員会や文科省に届け、働きやすい職場にしていきましょう。

北九州の戦争遺跡

小倉陸軍造兵廠技能者養成所① (小倉北区)

陸軍の直営工場では、高等小学校卒業業者を見習工として採用していましたが、専門知識を持つ工員養成の必要性から、工場毎に養成所を設置しました。「小倉陸軍造兵廠技能者養成所」は1940年4月に開設しました。

教育課程は、一般公募の養成工員科（3年）から始まり、以後は選抜試験を経て見習工員科（養成工員科から選抜、3年）、技術員科（普通科1年、高等科2年）へ進むことになっていました。また39年に青年学校が男子のみ義務化されたため青年工員科（男子5年、女子3年）を設置し、廠内の青年学校を廃止しました。養成工員科の受験資格は高等小学校卒業程度で、身体検査、人物検査、学力試験が課せられました。生徒には工員の身分が付与され、被服・学用品給与が支給されました。また青年工員科以外は全寮制で、その生活は、寮母が生活の世話をする以外は軍隊と同様でした。

沖縄の海を見る目が変わった

12/26-28 「沖縄平和の旅 ゆいまーる2024」

12月26日～28日、全教北九州「沖縄平和の旅 ゆいまーる2024」を開催し、20名が参加しました。

1日目は、「不屈館」で、沖縄の人たちの抵抗運動を学んだ後、沖縄県教職員組合那覇支部のご協力で、教育会館にて「沖縄平和ネットワーク」の稲福勉さんのお話を聞きました。沖縄戦の経過・敗戦とアメリカによる占領、復帰後の基地問題、沖縄県民の安全や安心が守られていない現実、南西諸島の自衛隊基地問題など多岐に渡り学習することができました。沖縄県教育会館は、ひめゆり学徒隊の学んだ「沖縄県立女子師範学校」のプール跡地にあり、ホールのステージには沖縄県教育関係者の



戦没者のお名前がぎっしり掲げられていました。

2日目は、「糸数壕（アブチラガマ）」、「ひめゆり平和祈念資料館」、「平和の礎」沖縄県平和祈念資料館を見学し、「戦争が始まってしまつては子どもたちを守ることができない。そのような事態にならないようにすることが子どもたちを守る」と強く思いました。その後「ガンガラーの谷」で沖縄の地



理と歴史を学び、夜は交流会を持ちました。最終日は、米軍上陸後の激戦

地「嘉数（かかず）の高台」、米軍と共同使用の運動施設建設などで基地返還を進めている読谷村役場、多くの自決者を出した「チビチリガマ」、「道の駅かてな」と回り、「正しい知識をもっているかどうかが生死を分けることがあること」「基地返還により地域の経済を活性化することができるところ」などを学びました。最後は世界遺産の勝連城跡を見学しました。



は「沖縄の海を見る目が変わった。知らないことが多かった。」と話していました。観光の旅では気付けない多くの学びを持ち帰ることができた旅となりました。

集まれば元気 語り合えば勇気 愚痴も磨けば要求に

女性部 フラワーアレンジメント講座（12/24）新春学習交流会（1/18）

全教北九州女性部は、「フラワーアレンジメント講座」（12/24）と「女性部新春学習交流会」（1/18）を開催しました。女性部はおしゃべりを大切に楽しく元気に活動しています。

フラワーアレンジメント

12月24日、組合事務所で黄金市場のお花屋さんにご指導していただき、正月用のフラワーアレンジメントに挑戦しました。この企画は今年で3回目です。参加者は、それぞれの個性が出た「映える」楽しい作品を仕上げ、お互いに写真をとるなどして楽しい時間をすごしました。



女性部新春交流会

1月18日、市内で「女性部新春交流会」を開催しました。最初に組合員による「セルフメンテナンス講座」で疲れた体をいたわり、その後食事をしながら職場の状況などの交流をしました。

交流では、採点アプリなど業務改善対策の問題点、職場の教員が不足していること、子どもが8名いる特別支援学級の多忙な毎日、特別支援学校肢体不自由校での修学旅行企画の大変さなどが語られました。

